

循環器救急医療のための調査、研究について



概要

当院は、神奈川県循環器救急患者に対する救急搬送及び診療実態に関する調査、研究を行っています。詳細は神奈川循環器救急レジストリー（K-ACTIVE）のホームページをご覧ください（www.kactive.net）。また、当院は川崎 CCU ネットワークに加盟し、地域循環器救急疾患患者のセーフティネットとして一年 365 日救急患者を受け入れています。

背景

現在、我が国における死亡原因の中に占める循環器疾患の割合は、悪性腫瘍に次いで高いことが報告されており、東京・横浜を含む全国各地に置いては、各々の地域での実情に合った搬送システムが構築されています。川崎市でも地域の循環器救急疾患に対する迅速で適切な救急医療体制を確立していくことが必要であり、そのためには循環器救急疾患に対する医療実態の把握・検証が必要不可欠です。

目的

川崎市での循環器救急疾患に対する搬送、医療の実態把握のための調査研究です。

2025 年 8 月からは病院前 12 誘導心電図の試験的な導入を行い、その有効性の調査を行います。

組織

本調査は川崎市 CCU ネットワーク参加 15 施設（AOI 国際病院、川崎協同病院、日本鋼管病院、川崎市立川崎病院、総合新川橋病院、川崎幸病院、関東労災病院、日本医科大学武蔵小杉病院、川崎市立井田病院、帝京大学医学部付属溝口病院、総合高津中央病院、虎の門病院分院、聖マリアンナ医科大学、川崎市立多摩病院、新百合ヶ丘総合病院）が中心となり、川崎市内で循環器救急疾患を受け入れている病院が協力して行います。

調査方法

循環器救急疾患の受け入れ時に、救急隊があらかじめ伝送した 12 誘導心電図や搬送した時の状態等についての情報を聴取り、入院後の情報とともに登録集計し、川崎市の循環器救急患者診療実態について調査・分析します。

本調査の結果より期待されること

川崎市における、循環器救急疾患に対する利用の実態を把握・検証し、問題点があれば改善のための方策を立てることで、今後の川崎市の循環器救急疾患に対する医療の改善・発展に寄与することになります。

倫理的配慮について

この調査では、参加していただいた患者さんが誰であるかを明らかにする情報は含まれません。もしこの調査に、自分の情報が使われることを拒否される場合にはお申し出下さい。その場合、あなたの診療情報は使用しませんし、拒否されても診療上不利になる事はありません。

2025 年 9 月 関東労災病院 病院長